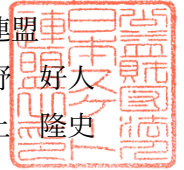


各都道府県スケート連盟
専務理事・理事長 様
スピード部長 様

(公財)日本スケート連盟
専務理事 天野 好人
スピード部長 川上 隆史



国民体育大会（スピードスケート競技） 500m 及びリレー競技における
競技方法の変更について(ご連絡)

師走の候、皆様におかれましては、スケート競技会の運営・選手の育成等忙しくお過ごしのことと存じます。

さて、近年、国民体育大会において、競技スピードが高速化しており、特にリレー競技の決勝8チームが同時に競技することは、バトン受け渡しのリレーゾーンに最大16名の選手が混在することとなり危険が高まっている現状があります。また、500m競技においても同様に、スケート靴の変化や防護マットの設置によりコース幅が狭くなり、1レースに8名が競技することは危険性が高いと懸念されております。

このため、12月10日開催のスピード委員会で危険を回避するため競技方法を変更せざるを得ないとの結論に達しました。

つきましては、「基本要項」並びに「スピードスケート競技規則 運用マニュアル」を下記のとおり改訂し第72回国民体育大会冬季大会（長野県大会）から実施致しますので、ご了承いただき、関係各位に周知をお願い致します。

今後とも、本連盟の運営にご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

記

《基本要項》

3 競技方法

(3) 予選及び決勝は、次の方法で行う。

ウ 出場者が上記の人数を超えた場合は予選を行う。ただし、申込数が9名の場合は予選を行わずに決勝とする。(500mを除く) (下線部を加筆)

オ 500m・リレー競技

・決勝は決勝A(1位～4位) 決勝B(5位～8位)を行い、順位を決定する。ただし、参加者(チーム)が6名(チーム)以内の場合は決勝のみとする。

(下線部を加筆・現行要項 オをカに変更)

《スピードスケート競技規則 運用マニュアル》

3-6 国体の組み合わせに関する取り扱いについて

(5) (現行文を削除)

500m及びリレー競技においては、各組6名または6チーム以内とする。

(下線部を加筆)

以上